

# 動きという表現

植 松 浩 祥 (龍 祥)

UEMATSU Hiroyoshi (Ryusho)

本作品は、東京オリンピック・パラリンピックの開催を記念とする展覧会、日本の自然と書の心「日本の書二〇〇人選」東京2020大会の開催を記念して「」に出品したものです。

オリパラを盛り上げる、日本の文化芸術を世界に発信し、書の魅力を身近に感じていただくという意味合いを、作品作りへ全面的に含ませたわけではありません。しかしながら、全く考えなかったというわけでもなく、躍動感を少し表現できればと考えて制作しました。

各書体の中でも行草書体の変化の幅は広く、多彩な表現を見ることがができます。行草書体の作品を作る上で意識する要素の一つに、動きが挙げられます。動きと言っても一言では言い表せませんが、文字の形、大きさ、墨の濃淡、運筆など他にも上げられると思います。これは行草書体に限ったことではなく、表現することの上において当たり前のことでありましょう。

今回の作品、動き、躍動感を第一に表現を試みました。行草書の作品にはうねりがなければ面白くない。師の言葉でもあります。この簡単な言葉に含まれるものは、表現するには難しいことです。言葉にしなければ伝わらない、反面、言葉にできないことも多いのも事実です。しかし、言葉で言い表せない部分を何とか伝えたい、伝えていくことも大事な仕事であると考えています。

雲一鬢玉一梭  
 淡衫兒薄薄羅  
 輕攪雙黛螺  
 何處螺絲風  
 角角相和  
 簾外芭蕉三兩窠  
 夜長人奈何  
 李商隱詩  
 郭祥書

雲一鬢 玉一梭  
 淡淡衫兒薄薄羅  
 輕攪雙黛螺  
 秋風多 雨相和  
 簾外芭蕉三兩窠  
 夜長人奈何

135cm × 35cm